

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 北海道横断自動車道 <small>ねむろ</small> 根室線 <small>ほんべつ</small> 本別～釧路 <small>くしろ</small>	事業区分 高速自動車国道 事業主体 国土交通省 北海道開発局															
起終点 自： <small>ほっかいどうなかがわ</small> 北海道中川郡本別町共栄 至： <small>ほっかいどうくしろ</small> 北海道釧路市鶴野 <small>つるの</small>	延長 65.0 km															
事業概要 北海道横断自動車道は、黒松内町を起点とし、小樽市、夕張市、清水町、本別町等を経由して、根室市に及び網走市に至る高規格道路であり、このうち根室線は、本別ジャンクションから分岐し根室市に至る区間である。 本別～釧路（65.0 km）は、高速ネットワークの拡充により釧路圏と道央・十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化、物流効率化等の支援、津波浸水被害等の災害時の救急活動、観光周遊性の向上等の支援を目的とした事業である。																
H15年度事業化 （新直轄方式）	H一年度都市計画決定 （R一年度変更）	H16年度用地補償着手	H16年度工事着手													
全体事業費	約2,472億円	事業進捗率	約94%	供用済延長	48.0 km											
計画交通量		5,900～9,400台/日														
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="text-align: center;">B/C</th> <th style="text-align: center;">総費用</th> <th style="text-align: center;">総便益</th> <th style="text-align: center;">基準年</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事業全体) 1.3 (0.9)</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/ (事業全体) 686/6,383億円</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/ (事業全体) 1,751/8,124億円</td> <td style="text-align: center;">令和4年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業) 2.6 (5.6)</td> <td style="text-align: center;">(事業費) : 575/5,862億円 (維持管理費) : 104/446億円 (更新費) : 7.8/75億円</td> <td style="text-align: center;">(走行時間短縮便益) : 1,423/6,490億円 (走行経費減少便益) : 274/1,359億円 (交通事故減少便益) : 54/275億円</td> <td></td> </tr> </table>	B/C	総費用	総便益	基準年	(事業全体) 1.3 (0.9)	(残事業)/ (事業全体) 686/6,383億円	(残事業)/ (事業全体) 1,751/8,124億円	令和4年	(残事業) 2.6 (5.6)	(事業費) : 575/5,862億円 (維持管理費) : 104/446億円 (更新費) : 7.8/75億円	(走行時間短縮便益) : 1,423/6,490億円 (走行経費減少便益) : 274/1,359億円 (交通事故減少便益) : 54/275億円				
B/C	総費用	総便益	基準年													
(事業全体) 1.3 (0.9)	(残事業)/ (事業全体) 686/6,383億円	(残事業)/ (事業全体) 1,751/8,124億円	令和4年													
(残事業) 2.6 (5.6)	(事業費) : 575/5,862億円 (維持管理費) : 104/446億円 (更新費) : 7.8/75億円	(走行時間短縮便益) : 1,423/6,490億円 (走行経費減少便益) : 274/1,359億円 (交通事故減少便益) : 54/275億円														
感度分析の結果 事業全体及び残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.1～1.4（交通量±10%） 【残事業】交通量：B/C=2.2～2.9（交通量±10%） 事業費：B/C=1.3～1.3（事業費±10%） 事業費：B/C=2.4～2.8（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.3～1.3（事業期間±20%） 事業期間：B/C=2.5～2.6（事業期間±20%）																
事業の効果等 事業の必要性及び効果 <ol style="list-style-type: none"> ① 災害時の輸送ルート強化 <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の避難場所の確保や救急活動及び被災地外からの救援物資等の輸送ルートの強化が期待される。 ② 重要拠点港湾釧路港の流通利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・釧路港～十勝方面や釧路港～根室市間の所要時間が短縮されるなど、釧路港の取扱貨物の流通利便性向上が期待される。 ③ 主要な観光地への利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・道内外からの所要時間が短縮され、釧路地域の更なる観光活性化が期待される。 ④ 水産品の流通利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・道内各地のみならず苫小牧港から全国各地へ出荷される水産品の流通利便性向上が期待される。 ⑤ 救急搬送の安定性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・釧路地域の市町村から釧路市への救急搬送時間の短縮や、血液製剤の安定した輸送ルートの確保が可能となり、救急搬送及び血液製剤輸送の安定性向上が期待される。 																
関係する地方公共団体等の意見																
地域から頂いた主な意見等： 釧路市など1市10町1村の首長等で構成される「北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会」等より整備促進の要望を受けている。																
知事の意見： 「北海道横断自動車道根室線 本別～釧路」事業を「継続」とした「対応方針（原案）」案について、異議はありません。 当該事業は、道央・十勝・釧路圏の連絡機能の強化による地域間交流の拡大や、物流の効率化、道路交通の安全性の向上が図られ、経済・社会活動の活性化や道民の安全・安心なくらしの確保に寄与することから、早期供用をお願いいたします。																

なお、事業の実施に当たっては、平成2年12月3日付け道路第1322号「北海道横断自動車道小樽釧路線(阿寒町～釧路市間)に係る環境影響評価準備書に関する意見について」の知事意見を遵守するとともに、より一層、徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成15年 6月 北海道横断自動車道根室線 池田IC～本別IC開通
- ・平成17年10月 釧路市・阿寒町・音別町が合併
- ・平成21年11月 北海道横断自動車道根室線 本別IC～浦幌IC開通
- ・平成23年 5月 釧路港 国際バルク戦略港湾(穀物)に選定
- ・平成25年12月 一般国道38号 釧路新道 全線開通(暫定2車線含む)
- ・平成27年 3月 北海道横断自動車道根室線 浦幌IC～白糠IC開通
- ・平成27年 4月 釧路市・弟子屈町の「水のカムイ観光圏」が観光圏に認定
- ・平成27年 6月 道東地域が広域観光周遊ルート
(アジアの宝悠久の自然美への道ひがし北・海・道)に認定
- ・平成28年 1月 釧路市が観光立国ショーケースに認定
- ・平成28年 2月 釧路港 特定貨物輸入拠点港湾(穀物)に指定
- ・平成28年 3月 北海道横断自動車道根室線 白糠IC～阿寒IC開通
- ・平成28年 3月 一般国道38・44号 釧路外環状道路 釧路西IC～釧路東IC開通
- ・平成28年 7月 「国立公園満喫プロジェクト」に阿寒国立公園(阿寒摩周国立公園)が選定
- ・平成29年 8月 「阿寒国立公園」が「阿寒摩周国立公園」へ名称変更
- ・平成30年 3月 北海道内7空港特定運営事業等実施方針策定
- ・平成31年 3月 一般国道38・44号 釧路外環状道路 釧路東IC～釧路別保IC開通
- ・平成31年 3月 一般国道272号 上別保道路 全線開通
- ・平成31年 3月 釧路港 国際物流ターミナル運営開始
- ・令和元年 8月 北海道内国管理4空港特定運営事業等基本協定書締結
- ・令和2年 1月 北海道内7空港民間運営開始
- ・令和2年 3月 一般国道44号 根室道路 全線開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成15年度に事業化して、用地進捗率100%、事業進捗率約94%となっている。
(令和4年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

軟弱地盤対策の見直し、中央分離構造の見直し。
令和6年度：延長17.0km(2/4)開通予定

施設の構造や工法の変更等

軟弱地盤対策の見直し、中央分離構造の見直し。
引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

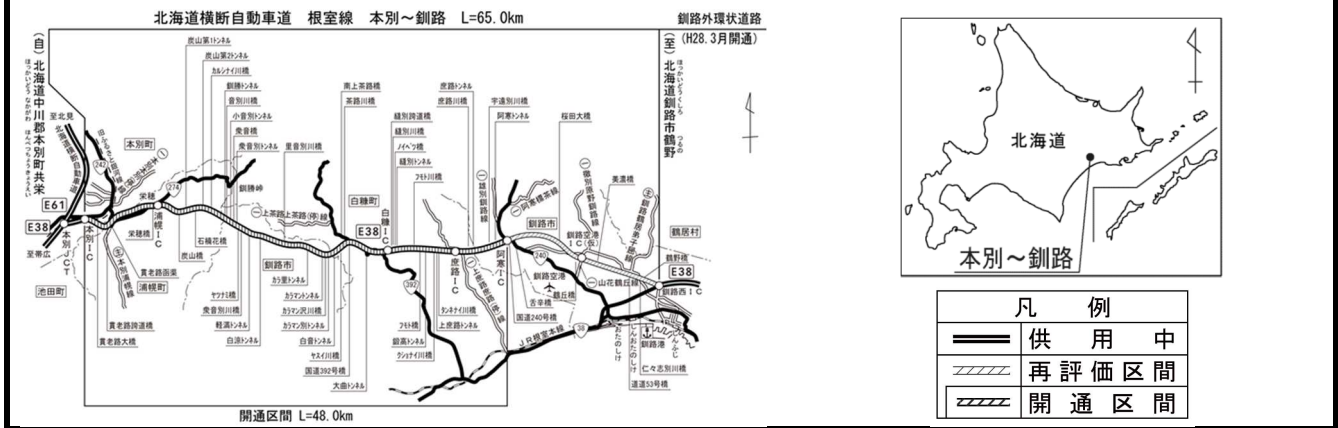
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化は無く、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



- ※ B/Cの上段は本別 JCT～根室 IC を対象とした場合、下段 () 書きの値は評価区間を対象にした場合の費用便益分析結果。
- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。